

.....兵庫県災害救急医療システム運営協議会.....江口 貴博.....

令和7年2月5日午後2時、兵庫県災害医療センターを訪問し、兵庫県災害救急医療システム運営協議会に参加しました。江口は数年ぶりの参加であり、江口が神戸大学病院時代に救急部で指導頂いた災害医療センター小澤名誉院長や中山顧問、そして脳外科手術を指導頂いた神戸赤十字病院山下院長らと旧知の親交を温めることができました。また、AMDA 兵庫からの報告時間を頂き、AMDA ネパール子ども病院の現状と共に、「風に立つライオン オブ・ザ・イヤー2024、柴田紘一郎賞」受賞したことを紹介しました。兵庫県や災害医療センターの取り組みが大きく進化していることが感じられると同時に、南海トラフ対応への準備の必要性を再認識できた有意義な会合でした。

.....神戸市薬剤師会訪問.....中川 卯衣.....

8月9日に神戸市薬剤師協会の安田理恵子会長を訪問しました。神戸市薬剤師協会は長年にわたり神戸市下の調剤薬局でAMDA 兵庫のために募金活動をしてくださっています。毎年、その寄付金をいただきにありがた、AMDA 兵庫の活動のご報告をしています。今年、副理事長中川がご挨拶に伺い、長年にわたるご支援に感謝をお伝えし、これからも変わらぬご協力のお願いをしました。



= AMDA 兵庫活動記録【2024年4月1日～2025年3月31日】 =

|                 |                                                                                   |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 2024年4月20日～21日  | 第19回防災山キャンプ テントを利用したサウナの納品（江口、島田）                                                 |
| 2024年5月25日～26日  | 第20回防災山キャンプ 備蓄倉庫の視察（江口、島田）                                                        |
| 2024年7月7日       | 風に立つライオン基金主催・能登半島地震支援活動（江口、上野）                                                    |
| 2024年7月20日～21日  | 第21回防災山キャンプ いざという時の火起こし 薪割り 炊き出し訓練（江口、島田、AMDA 神女クラブ）                              |
| 2024年8月3日～4日    | ホウエツ病院と阿南市視察（江口、島田、AMDA 神女クラブ）                                                    |
| 2024年8月9日       | 神戸市薬剤師会 活動報告・寄付金御礼（中川）                                                            |
| 2024年9月28日～29日  | 第22回防災山キャンプ 薪で作るカレーと飯盒炊飯（江口、島田、AMDA 神女クラブ）                                        |
| 2024年11月16日～17日 | 第23回防災山キャンプ 薪を利用したオープン料理（江口、島田、AMDA 神女クラブ）                                        |
| 2024年11月23日～24日 | 風に立つライオン基金主催・能登半島地震支援活動（江口、島田）                                                    |
| 2024年12月6日      | 風に立つライオン オブ・ザ・イヤー 2024「柴田紘一郎賞」贈賞式（江口、中川、島田）                                       |
| 2025年2月5日       | 兵庫県災害救急医療システム運営協議会 兵庫県災害医療センター（江口）                                                |
| 2025年2月9日       | 阿南市防災訓練 阿南第二中学校（江口、中川、島田、AMDA 神女クラブ）                                              |
| 2025年2月28日      | 第3回AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関ミーティング（中川）                                         |
| 2025年3月26日      | 東山泰清前官モンゴル国北極星勳章叙勲祝賀会、風に立つライオン・オブ・ザ・イヤー 2024「柴田紘一郎賞」授賞祝賀会（江口、中山、中川、島田、AMDA 神女クラブ） |

= ご寄付（敬称略）【2024年4月1日～2025年3月31日】 =

藍の都脳神経外科病院、浅原紀、井上京子、川上茂、神戸市薬剤師会、小林芙蓉後援会、土井眞里子  
豊中脳神経外科クリニック、水の都記念病院（五十音順）

|                             |                                                              |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------|
| ◇会員の募集                      | ◇AMDA 兵庫の活動に参加して下さい                                          |
| 活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。 | AMDA 兵庫では前述のプロジェクトに精力的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。 |
| 年会費 正会員 10,000 円            | 随時、定例会を開いております。AMDA 兵庫に興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。                  |
| 賛助会員 1 口 3,000 円（1 口以上）     |                                                              |
| 学生会員 3,000 円                |                                                              |



AMDA 兵庫 事務局

〒659-0032

兵庫県芦屋市浜風町 10-1

E-mail: info@amda-hyogo.com HP : http://amda-hyogo.com

定例会 随時、開催します。

HPに掲載しますので、ご覧ください。

発効日：2025年5月

# AMDA 兵庫だより

2024. 4 ～ 2025. 3 Vol.12



.....風に立つライオン オブ・ザ・イヤー 2024 年贈賞式.....中川 卯衣.....

公益財団法人「風に立つライオン基金」の選ぶ2024年のライオン オブ・ザ・イヤーの「柴田紘一郎賞」をAMDA 兵庫が受賞しました。これは、名曲「風に立つライオン」のモデルとなった柴田紘一郎先生の名前を冠する賞で、国外に対するボランティア活動が続ける個人・団体に贈られます。今回は、阪神大震災の時にネパールからうけたご恩を返す形で始まったAMDA ネパール子ども病院への技術提供やネパール地震の際の息の長い支援が評価されての受賞となりました。12月6日に霞が関の日本記者クラブで行われた贈賞式で理事長の江口は、ネパールの周産期医療の向上に寄与してきたこと、今後も小児医療の発展のために協力していくことなどを述べました。さだまささんから報道陣に対して、このような活動を続けている団体がいることを知って伝えてほしいというメッセージがありました。その後の懇談会では、長年にわたる災害時の復旧活動など国内のボランティア活動が評価され「鎌田實賞」を受賞した「チームふじさん」と共に、能登地震への支援を続け、近い未来に来るであろう南海トラフ地震に対する備えを続けることを話し合いました。



.....能登半島地震支援活動 7 月.....上野 瑛梨奈.....

7月7日、江口先生と濱村晃年（徳島）、上野の3人で能登半島に行きました。風に立つライオン基金主催の健康相談カフェが小規模仮設住宅の河井第四団地の談話室にて開かれました。開始前に輪島の被災状況を視察しました。全壊したまま手つかずになっている建物も多々あり、ただ手を合わせることはできませんでした。健康相談カフェが始まると高齢の方から子供まで幅広い世代の方が来られました。「被災してから眠り辛くなった。」と訴える女性は心の傷の存在を話してくださいました。また、脚の浮腫みを訴える女性に対して、江口先生が浮腫みを解消するような脚の運動やマッサージを教えていました。その後ライオン基金の女性メンバーからアロマオイルのハンドマッサージを受け、終始沢山お話をされ満足そうにされていました。その後80代後半の男性とその息子さんのお宅に江口先生と私、ライオン基金の坂田さんの3人で訪問しました。息子さんは、父親の運動量が低下し介護の負担が増えていることに辛さを感じていると訴えられました。江口先生は、毎日の積み重ねが大事です。毎日スクワットをしましょうと自ら手すりにつかまってやってみせると、父親も「明日からやってみる。」と笑顔でした。介護度の更新やケアマネジャーとの相談の必要性もお伝えしました。帰り際には火災があった朝市通りに行きました。今回の活動を通して輪島の被災状況、被災者が置かれている状況がよくわかりました。復興に向けての支援はまだまだで、継続的な支援が必要だと思いました。1日だけの訪問でしたが実際の被災地に入ることにより得られた貴重な体験は大きく今後に生かしていきたいと思います。



.....能登半島地震支援活動 11 月.....島田 雅文.....

11月23～24日、風に立つライオン基金主催の能登半島地震支援活動に参加しました。23日は江口先生が徳島当直明けの為、昼前の出発になるので新幹線で移動して能登國一宮・気多大社で能登半島地震の復興祈願を予定していましたが、前日に現地での移動手段が無いと連絡があり急遽、車で行く事となりました。当日は高速道路が京都付近で大渋滞だったので舞鶴若狭道ルートでの移動になりました。5時間くらいで着くと思っていましたが、11時に出発して羽咋市の旅館へ到着したのは19時、残念ながら気多大社での御祈願は今回見送りとなりました。その後、早野さん、坂田さんと合流して一緒に夕食をとることになり、互いの近況報告等しながら親睦を深める事が出来て、とても良い時間となりました。

24 日はいよいよ輪島市での活動、ライオンカフェでコーヒーやお菓子を  
提供しながらの被災者メンタルケアと、脳神経外科の江口先生と風の団  
所属の脳神経内科の先生の二人が健康相談会。朝 8 時に出発、輪島  
市へと向かいます。羽咋市から輪島市まで 1 時間半ほどかかりますので  
被災状況をしながら移動しました。主要道路は修復途中で何とか車が走  
れる状態にはしていますが、元通りになるにはまだまだ何年もかかりそう  
に思いました。又、土砂災害は思っていたより酷く、至る所で広範囲に  
山が崩れ落ちて土砂や木が川へ流れ込み、二次災害を引き起こす危険  
な状態となっていました。特に半島の先へ進んでいくにつれて災害が酷  
くなっていくのを感じます。輪島市に入ってコンビニに立ち寄りましたが、  
辺りは手つかずの倒壊家屋がそのままの状態、そこは震災直後から  
時間が止まっているようでした。阪神淡路大震災を経験している私には、  
30 年前の神戸が鮮明に思い出されました。目的地はそこからさらに先、  
輪島駅に隣接している仮設住宅横に設置されたトレーラーハウスでした。  
訪れる人はご高齢の方が多く、健康相談だけでなく多くの方が不安なこ  
と等を語っておられる姿を見て、震災からある程度の期間が経過しまし  
たが、まだ多くのストレスが溜まっているのを感じました。たまたま通りかか  
った女性が「85 歳の母がめまいで悩んでいるので連れてきていいですか」  
と尋ねられ江口先生が担当することに。来た時は今にも倒れそうな状態  
でフラフラしているおばあさん。小一時間ほど先生が話を聞きアドバイ  
スをしたところビックリするほど元気になっており、帰るときにはニコニコしな  
がら今日は来て良かったと私にも話し掛けてくれました。この健康相談のおかげで医者が話を聞くことにより病気以外の不安やストレス  
が解消される事が良くわかりました。又、病気でない方もライオンカフェに来られる皆さんから多く聞こえて来たことは、仮設住宅では  
あまり会話が無いとの事でした。ライオンカフェのトレーラーハウス内には医師二人が昼食を取る暇もないぐらい多くの人が集まり、江  
口先生が 20 名、脳神経内科医が 10 名程度担当していました。トレーラーハウスの外にはテントがあり、そこでもコーヒーを飲みなが  
ら人が集まり会話が弾んでいました。又、被災地の子ども達のメンタルケアを行う NPO に所属する、金沢大学医学博士の能登里山  
里海未来創造センター長が、近く子ども達 30 人程度を連れてライオンカフェを訪問、寂しかった被災地に賑やかな笑い声と元気を  
届けてくれました。

今回の支援活動に参加して、今の時期に必要な事が何であるかを理解すると共に、地震と水害という二重の被害にあったにも関わら  
ず、懸命に生きている方々の笑顔を見ることが出来ました。能登半島地震からもうすぐ 1 年になりますが現地を見ればまだまだ復興に  
時間がかかるのがわかります。これから厳寒期に入り寒い地域でありますので AMDA 兵庫のテントサウナの出番も近くありそうに思  
います。自分に出来ることは小さいと思いますが、少しでも力になり一人でも多くの被災者の笑顔が見られるように頑張ろうと思いました。

## .....ハウエツ病院・阿南市視察.....AMDA 神女クラブ マルコス・アーニー・カバレス.....

8 月 3 ～ 4 日、AMDA 神女クラブ 5 名、江口先生、島田さん、濱村さん計 8 名で南海トラフ地震が発生した際に拠点地となるホ  
ウエツ病院、阿南市中心地、徳島市松茂の海キャンプを訪問しました。  
ハウエツ病院では、以前作られたヘリポートが規制により使用できなくなったものの、新たに作られたヘリポートは、24 時間位置表示  
灯がついており、いつでも何が起きてもヘリコプターが使用できるようになっていました。そしてヘリポートの隣には物資倉庫があり、  
寝袋、ガスコンロ、水、蚊取り線香、非常用トイレなど生活に必要なもの一式が揃っていました。災害時に周辺の状況を確認するドロー  
ンの操作も教えていただき、実際に上空から撮影を行うなど貴重な体験をさせていただきました。  
またハウエツ病院は、人工衛星の電話機も所持しており、地震などの災害が発生した際でも、電話が繋がるようになっていました。さ  
らに各病棟では災害用のヘルメットや予備の医療器具が保管されていて、南海トラフ地震に備えてさまざまな取り組みがされていると  
感じました。



南海トラフ地震による徳島県の被害は非常に大きいと予想されており、救助活動のために使用される道路も、浸水により通行できない  
ことが想像できました。そこで私たちは津波の被害をあまり受けない山道を車で実際に通って移動しました。車 2 台が対向できない道  
路もあり、運転していた私もヒヤヒヤしながらの道中でした。今回は実際の災害ではなく無事に通過できましたが、災害が発生した際  
は岩石も落ちていると考えると今よりもより狭く険しい道が続くと思いました。  
また最終日には、AMDA 兵庫とともに活動している NPO 法人が運営する月見ヶ丘海浜公園のキャンプ場に行きました。水道も通っ  
ており、近日中に温水シャワーも設置予定であることで現状より生活しやすい環境になると思われました。私たち AMDA 神女クラブは  
初めてのキャンプ場訪問でしたが、メンバーが口揃えて「広い！！」というくらいすぐ広くてびっくりしました。今回の視察では、南  
海トラフ地震発生時に必要なのは物資だけでなく経路等、色々な問題があることを知ることができました。忙しい中、視察への協力い  
ただいたハウエツ病院の皆様、そしてこのような貴重な機会を与えて下さった AMDA 兵庫の皆様、本当にありがとうございました。

## .....阿南市避難所開設・運営訓練.....AMDA 神女クラブ 山本 桃香.....

令和 7 年 2 月 9 日（日）徳島県阿南市にある阿南第二中学校に於いて南海トラフ巨大地震を想定した避難所開設・運営訓練、  
防災訓練が実施されました。参加団体は、ハウエツ病院（徳島県）、諏訪中央病院（長野県）、DiMOT、阿南市医師会、保健師、  
防災士、陸上自衛隊及び AMDA 兵庫他、多数団体の参加がありました。そして私の所属する AMDA 神女クラブからも 4 名が参加  
しました。

訓練は避難所（阿南第二中学校）に傷病者が搬送されることから始まり、トリアージ、応急処  
置を行い、救急隊に傷病者の引継ぎまでの演習を行いました。訓練の様子は阿南市民も見学で  
き、医師によるトリアージや傷病者が担架で運ばれる様子、模擬治療の様子などを熱心に見学し  
ていました。傷病者役が、「痛い、痛い」と泣き叫んでいたり「子どもは知らんか、子どもは元気か」  
と叫んでいたり、実践しながら緊迫した雰囲気で行われました。屋内展示では、防災グッズや  
段ボールベッド、簡易トイレなどの展示があり、屋外では AMDA 兵庫による、冬季災害時に効力  
を発揮するテントを利用したサウナの採暖室を展示しました。テントを利用したサウナは簡単に組  
み立てられ、ストーブに薪を焚べ、サウナストーンに水を掛け蒸気を発生させるものです。体感温  
度や湿度を上げられる本格的なサウナに、体験いただいた多くの方に好評をいただきました。  
今回の訓練の中で特に印象に残ったのは、医師がトリアージをする場面です。傷病者にトリア  
ージタグがつけられる様子を見て、トリアージで助かる命がある一方、命に優先順位をつけることはと  
ても厳しい判断だと感じました。また、テントサウナを使用することで避難所での生活の質を向上さ  
せることができると実感しました。

今回参加した訓練は、私たち神女クラブにとって貴重な体験となりました。また震災を経験したことのない私たちが、災害現場で今回  
実施した訓練と同様な行動ができるか不安や課題が見えてきました。この不安を解消できる様、クラブ内で話し合い改善して、何れ  
起こるであろう南海トラフに向けて準備を進めていきたいと思います。



## .....第 3 回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム.....

## .....協力医療機関ミーティング.....中川 卯衣.....

第 3 回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関ミーティングが 2 月 28 日 16 時半からオンラインで開催されました。  
まず阿南市の危機管理部担当者が、体育館で行われた地元住民による災害訓練を総括しました。徳島県と連携し、体育館から大  
規模避難所や福祉避難所へ移動するという設定で行われました。  
次に阿南市の保健福祉部保健師から阿南市における災害保健医療体制と当日行われた医療救護訓練について説明がありました。  
地元医師会のドクターも参加し、模擬患者をトリアージし、一時治療を行うという設定でした。必要であれば地元消防や自衛隊の協  
力を仰ぎ大きな病院へ搬送するという流れも確認しました。  
3 番目に AMDA 本部職員の看護師が上記と協同して行った AMDA チームの訓練内容を説明しました。ハウエツ病院のロジスティク  
ス班が活動拠点本部で EMIS 入力を行いました。また医療班が手書きしている災害診療記録を張り紙に書き出す一方で、J-SPEED  
に入力し情報を広く共有できるようにしました。

最期に参加者で意見交換を行いました。訓練とはいえ次々に人が運ばれてくる状態では、医療スタッフ間で正しい情報を伝達共有  
することの難しさを感じました。一方で、正しい情報の伝達共有は本当に大切だとも感じました。そしてそのためにもコミュニケーショ  
ンが円滑に行えるように今回のように平時から顔を合わせておくことが大事で、一度体験したから終わりではなく毎年続けていく  
ことが大切だと思いました。